

【取組内容 1】 タブレット型端末初期指導プログラム「はじめのいっぽ（仮）」について**開発の経緯****【ICTを活用した授業の課題】**

ICTを活用した授業において、タイピングに難があるために、自分の考えを表現できなかつたり、思考にまで至らなかつたりという課題がある。またCBT形式での試験においてタイピングで躓き実力を発揮できないということもある。

【浜松市の現状の課題】

学校、あるいは学年・学級によって、タイピング練習を始める学年・時期、タイピング練習の頻度等に差があり、子供たちのタイピング技能の差につながっている。結果、年度が替わるごとに、また1からタイピング指導を行ったり、低い技能の子に合わせた授業を行わざるを得ない状況が生じたりすることになり、これがICTを活用した授業の推進を阻害する一要因となっている。

【「はままつタイピングメソッド(仮)」開発の理由とねらい】

小学校低学年の児童は、ローマ字を学習していなくても、英文字を図として認識できることから、小学校3年生から一般のタイピング練習ソフトを使って自主的に力をつけていくことができるよう、小学校低学年で段階的にタイピングの力を育成できる「はままつタイピングメソッド(仮)」を開発した。

これにより、タイピング技能向上の下支えを行い、タイピング技能差の縮小と技能の向上を目指すことで、ICTを活用した授業の推進を図る。